

文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）の認知症看護エキスパート 養成プログラム ー3年間の事業継続を通してー

讃井真理 川本雪江 川上香奈 小早川由佳 撰 敬子
小藤玉実 佐々木秀美 岡本陽子 堀本かえで

職業実践力育成プログラム（BP）は、文部科学省が認定する履修証明プログラムとして社会人の学び直しを推進する制度である。本学においては、2017年度に大学院発で課程名（特別の課程）「認知症看護エキスパート養成プログラム」を履修証明プログラムとして設置した。2017年度の5名、2018年度の5名に引き続き、2019年度は6名の受講者が集まりプログラムを開始した。

本年度は、教育訓練給付制度の利用が可能となり、2名の受講者が利用した。また継続的に認知症加算2の対象研修としての認可も得ることができた。

課程名	広島文化学園大学大学院看護学研究科 認知症看護エキスパート養成プログラム
課程内容	認知症看護の実践力育成のための7科目、150時間のプログラムで構成 科目名 1.高齢者の人体構造機能（フィジカルアセスメント） 2.認知症の病態と認知症の診断と治療 3.認知症看護概論 4.認知機能とアセスメント 5.認知症の看護各論1（コミュニケーション） 6.認知症の看護各論2（ケアマネジメント） 7.認知症看護実習
受講者	6名（うち5名が修了）
募集対象	看護師資格を有し就業している者、あるいは、 修了後に就業の意思のある潜在看護師
日時	2019年6月5日 ～ 2019年12月8日
場所	本学阿賀キャンパス、及び実習施設
2019年度の動き	厚生労働省 職業訓練給付金制度のプログラムとして認可されて以後、始めて2名が利用した。本年度より受講料が110,000円となった。厚生局 認知症加算2の対象講座として2018度・2019年度の講座が認可された。

1. 主旨

職業実践力育成プログラム（BP）は、「学び続ける」社会の実現、社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会拡大を目的として、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定する制度である。

本研究科では認知症者に対するより高度な専門的、実践的能力を育成する教育プログラムを展開し、実践現場の認知症者ケアの質向上と、あわせて高齢者福祉に貢献することのできる人材の育成を目指し、履修証明プログラムとして看護師への養成を開始した。また、本学では 2017 年度より私立大学研究ブランディング事業を展開しており、認知症看護エキスパート養成プログラムは、本学のブランド力として認知症予防に寄与できる看護専門職サポーター養成のプログラムとしての機能を持つ教育プログラムとしても展開している。そして、2018 年度は BP の主旨でもある厚生労働省の教育訓練給付制度を申請し、2019 年度から制度の利用が可能となり、2 名が支給を受けた。それとともに、2017 年度から認知症加算 2 の対象講座となるよう申請を行っており、前年度に引き続き認可された。

2. プログラムの概要

本プログラムは、複雑かつ多様な高齢者、特に認知機能の低下のある方とその家族への高度な看護判断に基づいて適切な看護援助を実施・評価できる知識と技術を養うことを目的として、7 科目 150 時間の専門的科目で構成している。

2018 年 5 月に、「高齢者の人体構造機能」を、解剖学を専門とする本学の藤原隆教授に、また「認知症の病態と認知症の診断と治療」を認知症認定看護師の育成にご尽力されている谷向知教授にご講義いただいた。6 月からは「認知症看護概論」、「認知機能とアセスメント」で認知症者に対する看護の対象理解と援助の具体的方法について、2019 度からご講義いただく認知症認定看護師の川上香奈先生と小早川由佳先生に、そして認知症ケア及び高齢者福祉にも精通する奥田泰子先生（元本学教授）と認定看護師である川本雪江先生にご講義いただいた。さらに 7 月からは「認知症の看護各論 1（コミュニケーション）」で、河野保子先生（元本学の看護学研究科長）から認知症者とのコミュニケーションを理論的にご教授いただき、「認知症の看護各論 2（ケアマネジメント）」では、非薬物療法を含んだケア方法と実習に向けたアセスメント手法を、それぞれ加藤教授、讃井が担当し、認知症者をより深くアセスメントし、ケアをマネジメントするために必要なツールを使用した事例展開を行った。インフルエンザの感染等を考慮して、3 月に「認知症看護実習」を行った。認知症疾患治療病棟における中、重度認知症の方を対象とした日常生活援助を通して、必要な援助技術を学ぶとともに、認知症以外の疾患と何も変わらない高齢者看護の基本である「細かく観ていくこと」の重要性を学んでいた。事例の看護の展開課題をまとめ、各自が発表してディスカッションすることにより、学びを深め、共有し、思考する力が養うことができた。なお、プログラムの授業科目と日程は図 1 の通りである。

2019（令和元）年度 認知症看護エキスパート養成プログラム 授業科目と開講スケジュール						
課程名： 広島文化学園大学大学院看護学研究科看護学専攻 認知症看護エキスパート養成プログラム				開講時間：基本的に10時から。ただし都合により適宜調整 場 所：オープンコモンズ・スペース か 204講義室		
必修 選択	科目名	授 業 時間数	担当教員 実務家名	教員所属	開講日	場 所
			開 講 式		6月22日（土）9:30～	オープンコモンズ
必修	高齢者の人体構造機能 （フィジカルアセスメント）	15	藤原 隆	広島文化学園大学大学院 看護学研究科教授	6月22日（土）9:40～17:30	オープンコモンズ
					6月29日（土）9:30～17:30	204講義室
必修	認知症の病態と 認知症の診断と治療	15	たにがはら まさとし 谷向 知	愛媛大学大学院 医学系研究科教授 愛媛大学医学部付属病院 認知症疾患医療センター	7月19日（金）10:00～17:00 7月20日（土）10:00～17:00 9月21日（土）3時間	204講義室
必修	認知症看護概論	15	奥田 泰子	人間環境大学 松山看護学部 学科長・教授	7月 4日（木）14:30～18:30 7月 5日（金）10:00～16:00 8月27日（火）13:30～14:30	オープンコモンズか204講義室
			川本 雪江	賀茂台地訪問看護ステーション （認知症看護認定看護師）	7月14日（日）10:00～16:00	204講義室
必修	認知機能とアセスメント	15	川上 香奈	JA吉田総合病院 （認知症看護認定看護師）	8月25日（日）13:00～16:00 9月 3日（火）11:00～16:00	オープンコモンズ
			小早川 由佳	県立安芸津総合病院 （認知症看護認定看護師）	9月10日（火）10:00～15:00 9月20日（金）10:00～15:00	オープンコモンズ
必修	認知症の看護各論1 （コミュニケーション）	15	河野 保子	人間環境大学 松山看護学部 学部長・教授	8月16日（金）9:30～18:30 8月17日（日）9:30～17:30	204講義室
必修	認知症の看護各論2 （ケアマネジメント）	30	讀井 真理	広島文化学園大学大学院 看護学研究科教授	7月 4日（木）10:00～13:00 讀井 8月 6日（火）10:00～16:00 讀井 8月25日（日）10:00～12:00 讀井 8月27日（火）10:00～17:00 讀井 （一部は奥田先生）	7/4は 204講義室 以後はオープンコモンズ
			加藤 重子	広島文化学園大学大学院 看護学研究科教授	11月12日（火）10:00～16:00 加藤 11月19日（火）10:00～15:00 加藤 9月27日（金）11:00～15:00 讀井 12月 6日（金）10:00～15:00 讀井	9/27はナカムラ病院
必修	認知症看護実習	45	讀井 真理	広島文化学園大学大学院 看護学研究科教授	①10月 1日～ 3日 8:30～17:00 10月 8日～10日 8:30～17:00	ナカムラ病院
			風間 栄子	広島文化学園大学看護学部 講師	②10月28日～30日 8:30～17:00 11月 5日～ 7日 8:30～17:00	
			岡田 京子	広島文化学園大学看護学部 講師	可能であれば①で実習 難しければ②で実習 基本的に 8:30～17:00	
修了証交付式					12月 6日（金）15:00～	オープンコモンズ

表1 2019年度 認知症看護エキスパート養成プログラム

3. 養成プログラムの実際

- 1) 受講者：受講者は全て正規雇用者で、急性期病院の看護師1名（国家公務員共済組合連合会 呉共済病院、）、訪問看護ステーションそれいゆ看護師2名、訪問看護AOIステーション看護師1名、精神科病棟看護師2名（山口県内、賀茂医療センター）であった。30歳代から50歳代で、全員がベテラン看護師であった。
- 2) 受講料：110,000円/一人。個人負担が4名で、その他は公休と有給利用。教育訓練給付制度を利用した者が2名であった。中・重度の認知症の看護経験はないが、全員が認知症の方を受け入れている所属部署での勤務経験を持っていた。
- 3) 受講のきっかけと理由：受講したきっかけは、前年度受講生の紹介、本学大学院修了生と同僚からの奨め、本学行事参加時のチラシを見て関心を持った等、受講理由はさまざまであった。共通している点は認知症看護への関心と、併せて認知症者への対応の困惑感の払拭、学びの場の希求については前年度と変わらない。
- 4) 認知症看護実習：
 - ① 実習期間：45時間（6日間/2週間）
 - ② 実習場所：医療法人ピーアイエー ナカムラ病院（広島市佐伯区）
 - ③ 実習内容：受け持ち1名の看護展開を中心として看護を実践した。受け持ち以外の日常生活援助の実施（食事・排泄・入浴・アクティビティ等）と看護管理的視点になった講義・ディスカッションが行われた。

- ④ 成果発表（各論 2 含む）とレポート提出：事例展開を中心とした学びの発表とグループ討議、また今後の課題について情報の共有し、モチベーションの強化を図った。
- ⑤ レポート提出

4. プログラムの評価

実習施設会議における看護管理者の意見は、例年ほとんどテーブルに着く間もなく、問い合わせが多く、関心の高さを示している。その意見は、例年通り、認知症認定看護師の教育に移行できないか、講座の内容から考えると安価な内容であるが、個人負担となると高額である。様々な制度が利用できるのはメリットである等の意見をいただいた。また自己の専門性の追求をきっかけとして受講するものもあり、認知症ケアの系統的研修のニーズは高い。

本年度の受講生、及び受講生の所属長の意見、講師及び各施設からの意見は、認知症看護の教育の必要性和重要性の認識は高い。課題をもって実習されている。社会人で他の病院の看護に触れる機会は多くないため、貴重な機会である。互いに刺激し合ってエキスパートとして、仲間づくりが重要である。実践している看護が 100% と思っていないため、今後も質を高めるための努力と同時に看護師と介護士のレベルアップが望まれる。修了生からの継続的な問い合わせもあり、少しずつではあるが、情報共有が行われている。また学びを臨床現場に生かしている。「奥の廊下の電気の明るさをもう少し、何とか認知症の方が安心でき、安全な環境に改善したい」など、受講生からの研修成果が継続していることが伺える評価も頂くことができた。

5. 今後の課題と展望

本年度は 6 名の受講で、5 名が修了した。少しずつであるが、より有効なケアを実践しながら、修了後においても共に学びえるような関係性やつながりのあるプログラムへと展開できていることが実感できた年度であった。2019 年度は厚生労働省の教育訓練給付制度の利用が可能となり、2 名が支給を受けた。2018 年度、2019 年度の講義については、認知症加算 2 の対象講座として認可された。これらの制度利用によって、受講生には受講料の還元、受講が勤務する施設等へは人件費の一部を還元することが可能となった。受講生の確保のための広報は引き続いた課題である。今年度も前年度受講生が再履修という形で、本年度のプログラムに参加した。

認知症看護のエキスパートであるための知識・技術の修得は、今後はさらに高くなることが予想される。受講生のキャリアアップとしてのプログラムとして、本プログラムの教育・養成効果の可視化に取り組むとともに、本プログラム修了生が、本学看護学研究科へ入学し、老人看護専門看護師、あるいは認知症看護認定看護師、ケアマネジャーの資格取得へ向けて取り組みを始めていることから、今後は研究活動に発展できる可能性を検討していきたい。そのために、本学の研究ブランディング事業の高齢者カフェに修了生が参加し、高齢者の認知症予防や健康維持のための活動を受講者自らが積極的に参加したこと、本プログラムの社会的意義に繋がることものと期待できる。